

2022 年度

# 事業報告書

当財団の事業目的は宇宙科学に関する事業への援助及び研究助成等を行い、宇宙科学の振興に寄与することである。この目的に沿って行った公益目的事業は、(1) 宇宙科学奨励賞顕彰事業、(2) 国際学会出席旅費支援事業、(3) 国際学会開催支援事業の3事業である。2022年度は、(1)の宇宙科学奨励賞顕彰事業については予算の範囲内で例年通り実施した。(2)の国際学会出席旅費支援事業、及び(3)の国際学会開催支援事業については、新型コロナウイルス問題がおきる以前の年度(2019年度以前の年度)に比べ応募数が少なく、(2)と(3)の支援事業の合計は予算を若干下回る状況であった。ただし2022年度のこれら事業への新型コロナウイルス問題の影響は、2020年度及び2021年度と比べると小さくなってきている。一方他団体が中心となって企画・運営される宇宙科学の知識の普及・啓蒙活動に対する一般支援助成については、予定したイベントの全てについて法人会計の管理費内で実施した。

当法人の管理・運営は極めて経費を節減した方法ながら、関係者の協力の下で例年通り進められた。また新型コロナウイルス問題に対処するため、一部の管理・事務作業はリモートで実施した。

## I. 公益目的事業

### (1) 宇宙科学奨励賞顕彰事業

宇宙科学奨励賞は、宇宙理学・宇宙工学の分野で優れた研究業績をあげ将来宇宙科学推進の中心となることが期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学分野の進展に寄与することを目的として、当公益財団法人の前身の財団法人宇宙科学振興会において2008年度に創設された。この事業ではまず関係学会(2022年度現在は11学会)の研究者に候補者の推薦を依頼し、宇宙科学各分野の当該年度4月2日時点で37歳以下の若手研究者(この年齢制限は大学院修了後約10年間を目途とするとの趣旨)のうちで最近著しい成果を挙げている若手研究者を推薦していただく。寄せられた推薦に基づいて、各分野の有識者で構成される選考委員会により候補者の審査・選考を進める。選考委員会は原則として宇宙工学関係から1名、宇宙理学関係から1名、合計2名の候補者を選出する。理事会は選考委員会の推薦に基づいて当該年度の授賞者を決定する。

第15回目となる今年度の公募では、関係の各分野の研究者から、理学系6名、工学系2名、合わせて8件の授賞候補者の推薦を受けた。2022年11月18日に第1回、2022年12月10日に第2回の選考委員会が開催され、その間及びその後のメール連絡を含めて審査選考が行われた。審査の結果、理学分野では大阪大学大学院 理学研究科・助教 野田博文氏(1986年生)に対して、その研究題目「活動銀河核エンジンの解明と飛翔体搭載観測装置開発への重要な貢献」を対象として、工学分野では宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所・JSPS特別研究員PD(現在は九州大学 大学院工学研究院 航空宇宙工学部門・特任助教)高尾勇輝氏(1991年生)に対して、その研究題目「ソーラー電力セイルによる深宇宙探査の軌道設計と超小型宇宙機への応用研究」を対象として、第15回宇宙科学奨励賞を授与することとなった。授賞者には賞状、表彰楯の他に副賞30万円が授与された。

新型コロナウイルスの問題のなかった年度(2019年度以前の年度)では、3月初旬に本賞

の表彰式（受賞記念講演会を含む）および祝賀会を開催していたが、今年度は新型コロナウイルス問題の状況に配慮して、表彰式のみを3月6日に都内のホテルにてご来賓と関係者にご参加いただき開催した。表彰式は外部からオンラインでも参加可能とし、会場及びオンラインでの参加者数は例年とほぼ同じ50名程度であった。

## （2）国際学会出席旅費支援事業

この事業は当財団が公益財団法人に移行する前の財団法人宇宙科学振興会により1997年度に創設された。当初より宇宙理学及び宇宙工学に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている当該年度4月2日時点で35歳以下の優れた若手研究者に対して、海外で開催される国際学会に出席する費用の支援を行ってきた。2006年度以降は、大学や研究機関などを退職後も活発な研究活動を行っている63歳以上のシニア研究者に対しても支援を行っている。

国際学会出席旅費支援の申請は当財団の研究助成審査委員会において採否が審査される。応募総数に対する採択率は、新型コロナウイルスの問題のなかった年度（2019年度以前の年度）では概ね0.25程度であったが、新型コロナウイルスの問題で応募数が減少した2020年度以降は概ね0.8程度である。審査の結果採択された助成対象者は、その発表論文テーマ、国際会議名、開催場所、日時等の情報とともに財団のホームページに公表される。渡航後には国際会議で発表の成果についての報告書を渡航1ヶ月内に提出頂き、提出された報告書は財団のホームページに掲載される。

2022年度前期に当たる2022年4月～9月の間に開催される国際学会への出席に対しては、2022年2月28日に応募を締め切った。また2022年度後期に当たる2022年10月～2023年3月に開催される国際学会への出席に対しては、2022年8月31日に応募を締め切った。また2023年度前期に当たる2023年4月～9月の間に開催される国際学会への出席に対しては2023年2月28日に応募を締め切った。

本年度の公募は、財団の公式ホームページの他に関係11学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択者には1件当たり10万円～30万円の範囲で助成を行うこととしており、2022年度の予算（210万円）では10件程度の国際学会出席旅費支援を予定したが、2022年2月28日締切りの公募に対し4件の応募、8月31日締め切りの公募に対しては7件の応募があり、合計9件（応募者総数11件、採択率約81%）が採択された。ただし採択された1件は、他財団での助成が決まったことにより、採択者が支援を辞退した。2022年度の助成額は215万円であった。表1に助成者の一覧表を示す。

表 1 2022 年度 国際学会出席旅費支援 助成者一覧表

所 属	氏 名	国際研究集会の 名称	主催団体	開催地	期 間
東北大学 博士後期課程 2 年	李 忠日	アメリカ航空宇宙学会 2023 American Institute of Aeronautics and Astronautics SCITECH FORUM 2023	アメリカ航空宇宙学 会 (AIAA)	米国 メリーランド州	2023.1.23～ 27
東北大学 工学研究科 博士前期課程 1 年	大川 真生	アメリカ航空宇宙学会 2023 American Institute of Aeronautics and Astronautics SCITECH FORUM 2023	アメリカ航空宇宙学 会 (AIAA)	米国 メリーランド州	2023.1.23～ 27
京都大学 博士後期課程 3 年	小川 翔司	トールス 2022 ワークショップ TORUS 2022 Workshop Smoke and Mirrors	Leiden University	オランダ ライデン	2022.12.13 ～15
東北大学 理学研究科 特任研究員	鎌田 有紘	米国地球物理学連合 2022 年秋 季大会 AGU Fall Meeting 2022	米国地球物理学連 合 (AGU)	米国 イリノイ州	2022.12.12 ～16
広島大学 博士後期課程 1 年	佐伯 琳々	第 13 回アジア微小重力シンポジ ウム 13th Asian Microgravity Symposium	KMS, CAS, NSMSA, JASMA, JSBSS	韓国 ジェジュ	2022.10.24 ～28
東京大学大学院 工学系研 究科 航空宇宙工学専攻 博士後期課程3年	田畑 邦佳	アメリカ航空宇宙学会 航空フォー ラム&展示会 AIAA Aviation forum & exhibit	American Institute of Aeronautics and Astronautics (AIAA)	米国 イリノイ州	2022.6.27～ 7.1
京都大学 特定研究員	岩田 和也	第 28 回爆発・反応系ダイナミクス に関する国際コロキウム 28th International Colloquium on the Dynamics of Explosion and Reactive Systems	The Institute for Dynamics of Explosions and Reactive Systems (IDERS)	イタリア ナポリ	2022.6.19～ 24
東京大学大学院 工学系研 究科 航空宇宙工学専攻 助教	関根 北斗	第 33 回国際電気推進学会 33rd International Electric Propulsion Conference	Electric Rocket Propulsion Society	米国 ボストン	2022.6.19～ 23

### (3) 国際学会開催支援事業

宇宙科学分野（宇宙理学、宇宙工学）の国際学会・研究集会を日本国内で開催する組織・団体に対する支援は前身の財団法人宇宙科学振興会の創設（1990年）当初より行われてきた。ただし、当初は宇宙科学分野の国際学会・国際研究集会の主催は宇宙科学研究所の研究者が行うことが多かったため、全国公募ではなく宇宙科学研究所内部の研究者または衛星プロジェクトなどで宇宙科学研究所と共同研究を進めている各大学の研究者を対象とする内部応募の形式となっていた。その後この助成事業に対し全国的に関心・期待が高まってきたことを受け、2007年度よりこれを宇宙科学研究所の事業に限らず理論的研究等も含めて、全国の研究機関・大学において宇宙理工学に関する国際学会・研究集会を主催する場合には広く応募できるように、全国の研究機関・大学を対象とした公募型事業に発展させてきた。公益財団法人宇宙科学振興会に移行した後においてもこの事業を継続している。

国際学会・国際研究集会開催の支援の申請は、国際学会出席旅費支援の申請と同様、当財団の研究助成審査委員会において採否が審査される。応募総数に対する最近の採択率は平均して2分の1程度である。年度の上半期（4月～9月）開催分の応募の締め切りは前年度2月末日とし、下半期（10月～3月）開催分の応募申請の締め切りを8月31日として実施してい

る。

本年度の公募は、財団の公式ホームページの他に関係11学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択された国際学会・国際研究集会に対し、1件当たり20～50万円の範囲で助成を行うこととしており、2022年度の予算（100万円）では3～5件程度の国際学会・国際研究集会開催支援を予定したが、2022年2月28日締め切りの公募に対しては1件の応募があり、8月31日締め切りの公募に対しては応募は0件であり、合計1件（応募件数1件、採択率100%）が採択された。2022年度の助成額は40万円であった。表2に助成した国際学会の一覧表を示す。

表2 2022年度 国際学会開催支援 助成学会一覧表

所 属	申請者	国際研究集会の名称	主催団体	開催地	開催期間
東京都立大学 理学部・物理学科 教授	田沼 肇	第20回高電離イオン物理学国際会議 20th International Conference on the Physics of Highly Charged Ions	HCI 2022 国内組織委員会	島根県産業交流会館 (くにびきメッセ, 島根県松江市) (オンライン併用)	2022.8.29 ~ 9.3

なお、公益目的事業(1)～(3)の2022年度の事業別応募採択数を、参考資料として本報告書に添付している。

## II. 財団の管理運営等法人会計関係

現在当財団は神奈川県相模原市に所在する国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所内に一室を借用しこれを事務室として、非常勤事務局長1名、非常勤事務職員2名の計3名体制で財団の管理運営を行っている。

### (1) 宇宙科学に関する一般支援助成

一般支援助成の目的は、広く一般国民に対して宇宙科学に関する知識を普及するとともに、若者の宇宙科学に関する興味・関心を深め、宇宙科学の将来の発展に寄与することである。本助成は一般国民、青少年を対象に同様の目的で活動する他団体と連携して行う。

2022年度に一般支援を行なった支援先は表3に示す通りである。本助成は他の組織・団体が企画・運営の中心になっている事業への支援であるため、公益財団法人への移行後は管理費（法人会計）から支出することとしている。2022年度は6件について助成を行い、支援額は合計約73.7万円であった。

表3 2022年度 宇宙科学に関する一般支援助成

支援内容	支援先
多摩六都サイエンスレクチャー 2022年5月28日、9月13日開催	多摩六都科学館
第21回「君が作る宇宙ミッション」2022年8月1日～8月5日開催	宇宙航空研究開発機構 宇宙教育センター
第18回 能代宇宙イベント 2022年8月11日～19日開催	一般社団法人あきた宇宙コンソーシアム
第41回モデルロケット全国大会 2022年10月15日開催	日本モデルロケット協会
2022年度JAXA/相模原キャンパス特別公開 2022年10月21、22日開催	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
第30回 衛星設計コンテスト 2022年11月12日開催	一般財団法人日本宇宙フォーラム

## (2) 基本財産の現況と運用

2022年度末における基本財産総額は約4億4219万円であり、基本財産の運用に伴う果実（基本財産受取利息）は約294万円（約0.66%）となり、前年度実績より約68万円の減少となった。

## (3) 賛助会員の加入状況

2022年度の会員数は、12法人（25口\*）であった。（※ 賛助会費1口10万円）

## (4) 理事会、評議員会の開催

2022年度には次の通り理事会、評議員会を開催した。

- ・2022年5月31日：宇宙科学研究所A棟2階会議室及びオンラインにおいて、第34回理事会を開催した。「2021年度事業報告及び財務諸表等承認の件」の議案について承認・可決を行った。
- ・2022年6月20日：KKRホテル東京 白鳥の間及びオンラインにおいて、第16回評議員会を開催した。「2021年度財務諸表等承認の件」について承認・可決を行なった。
- ・2023年1月5日：「2022年度第15回宇宙科学奨励賞の授賞者決定の件」について承認・可決する旨の理事会のみなし決議を行なった（第35回理事会）。
- ・2023年3月6日：KKRホテル東京 梅の間およびオンラインにおいて、第36回理事会を開

催した。「2023 年度事業計画及び収支予算案提案の件」、他 3 議案について承認・可決を行った。

### Ⅲ. 附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しない。

以上

(参考資料)

### 2022年度 事業別応募採択数（公募年度で集計）

（2022年4月～2023年3月）

#### 1) 宇宙科学奨励賞顕彰事業

	応募申請 (件)	採択 (件)	賞金 (¥)
10/31 締切	8 (理 6・工 2)	2 (理 1・工 1)	600,000

#### 2) 国際学会出席旅費支援事業

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額 (¥)
8/31 締切	7	5	1,340,000
2/28 締切*	10	4	1,140,000
計	17	9	2,480,000

\*：2/28 締切の助成は、2023年度前期（2023年4月～9月）に実施予定のため、2022年度事業報告書本文の集計には、件数、採択額ともに含まれない。

#### 3) 国際学会開催支援事業

	応募申請 (件)	採択 (件)	採択額 (¥)
8/31 締切	0	0	0
2/28 締切*	3	2	500,000
計	3	2	500,000

\*：2/28 締切の助成は、2023年度前期（2023年4月～9月）に実施予定のため、2022年度事業報告書本文の集計には、件数、採択額ともに含まれない。